

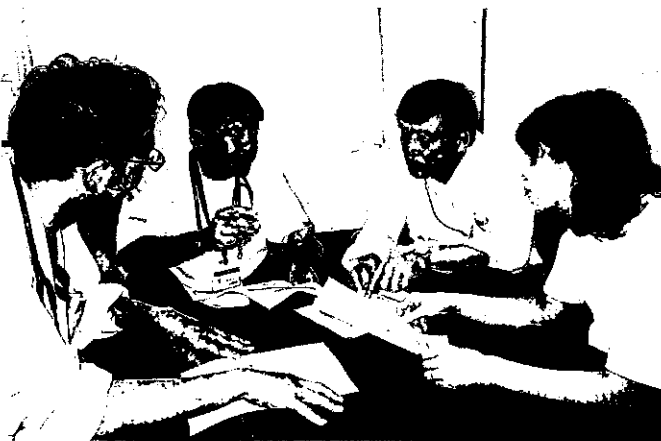
患者の習慣踏まえ初期診療

家庭医育成 徳島大が着手

徳島大学(徳島市)が幅広い分野の医療知識を身に付けた家庭医療専門医師(家庭医)の育成に乗り出した。高齢化社会の進展で必要性が増しているが、医療の高度化で専門医志向が高まり、総合的な診療ができる医師が減少しているため。県立海部病院(牟岐町)と連携。3年間にわたって臨床研修や離島での外来診療を行うプログラムで、今月から3人の医師が取り組んでいる。

患者の生活習慣も踏まえて初期診療を適切に行う、状況に応じて専門医に引き継ぐのが家庭医。高齢者にはさまざまな身体の異常が出やすく、家庭医が高齢化社会で不可欠になっている。地域の開業医がかりつけとなつて当たるのが一般的だ

高齢化社会増加 海部病院と連携



参加医師にプログラムを説明する谷教授(右から2人目)と河野講師(同3人目)―海部病院

・東京)が推進。現在、学会の承認を受けた145のプログラムが全国の大学などで行われているが、県内では初めて。

プログラムでは、地域医療支援に積極的に取り組んでいる海部病院を拠点に、内科や外科、産婦人科、救急などの研修と訪問診療を実施。海部郡内や離島の診療所、老人福祉施設での外来診療も行う。

臨床経験3年以上の医師を対象に募集したところ、海部病院の医師3人が応じ、今月から研修を始めた。谷教授は「家庭医の需要は今後ますます高まる。ぜひ多くの医師に参加してもらいたい」と呼び掛けている。

(大塚康代)

は、全国の医師や歯科医 一般社団法人日本プライマリーケア連合学会(本部約6千人が名を連ねる)